

子育て支援に携わる団体の 現状確認のためのアンケート調査結果報告

平成 27 年度ひょうごボランティア基金「中間支援活動助成事業」の中で、阪神南県民局内の 3 市（尼崎市、西宮市、芦屋市）で子育て支援活動をおこなっている団体に対し、地域の子育て支援団体が地域の中間支援活動の新たな担い手に成りうる存在かを確認するためのアンケート調査を実施しました。

調査対象：29 団体 有効回答：7 団体

調査期間：平成 28 年 2 月～3 月

問 1：貴団体のスタッフは何名ですか

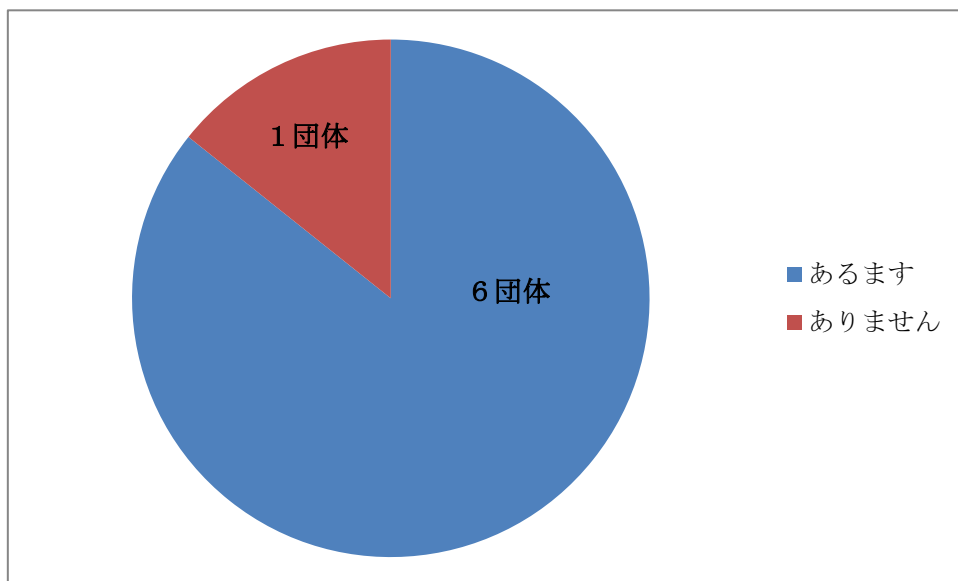
（スタッフとは、貴団体の活動に携わる主だった人の数で、有償無償は問いません）

回答団体の数	1~2 名	3~5 名	6~10 名	11~15 名	16~20 名	21~25 名
3						
2		7 名		1 5 名	2 0 名	
1	2 名	5 名		1 5 名	1 8 名	

問 2：貴団体には、事務局機能がありますか

（事務局機能とは、団体の事務業務を行う専任の人が居たり、組織の中で事務系の仕事をおこなう人が暗黙の了解でも、ほぼ決まっている場合を言います）

※ 代表者や一部スタッフが自主事業と兼務で事務仕事も処理している場合は無いとお答え下さい



【問 1・2 の考察】

今回、回答頂いた団体のうち、5 団体が法人格を有する団体だった為、比較的スタッフ数も多く、事務局機能も有する団体の数が多い結果となったと考えられる

問3：貴団体には、専従者がいますか（区分ごとに人数をご記入ください）

	団体毎の専従者数							平均
	2	2	4	15	14	2	0	
①有償の専従者または職員がいます	2	2	4	15	14	2	0	5.6人
②無償やボランティアの専従者がいます	0	2	11	0	2	0	0	2.1人
③専従者や職員は置かずボランティアのみで活動	0	0	0	0	0	0	3	0.4人
④臨時や不定期で活動を手伝ってくれる人がいます	0	0	0	10	4	1	0	2.1人
合計（人）	2	4	15	25	20	3	3	

【問3の考察】

専従者や職員の数が多い団体ほど、臨時や不定期で活動を手伝ってもらえる人の数も多く活動が安定していることがわかる。

また、少人数の専従者または職員であっても、専従者がいれば、ボランティアなどに頼らなくても、業務が行われているようである。

問4：貴団体が日頃おこなっている事業や活動を教えてください（該当全てにお答え下さい）

	1	2	3	4	5	6	7 (団体)
①保育							
②親子交流							
③体験活動							
④相談事業							
⑤文化活動							
⑥学習支援							
⑦障害児支援							
⑧不登校児童支援							
⑨母親支援							
⑩中間支援							
⑪子育て支援者の育成							
⑫その他	発達障害等で悩む母親への学習交流（1） 子育て啓発（1） 情報発信（1） 公開学習会（1）						

【問4の考察】

子育て支援の中でも、多くの団体がおこなっているのは、子どもへの直接的な支援より育児をおこなっている大人（母親）に対する支援や相談であることがわかった。

また、子育て支援と並行し、中間支援を現時点でもおこなっている団体も既に存在していることもわかった。

問5：貴団体が、日頃行っている事を教えてください（該当全てにお答え下さい）

	1	2	3	4	5	6	7(団体)
①地域や市民、子ども達との交流							
②情報収集や情報提供							
③相談やコンサルティング							
④調査研究							
⑤人材育成や研修							
⑥子どもや保護者などへの支援							
⑦政策提案							
⑧その他	公開学習会（1）						

【問5の考察】

最も多かった、子どもや保護者などへの支援を除くと、地域や市民、子ども達との交流がその次に多い。このことから、やはり子育て支援に携わる団体は、単に子どもや保護者への支援だけでなく、地域やその地域で生活をする市民との交流や情報収集や情報提供についても、日頃から活発に行っている事がわかる。

問6：貴団体が、A)地域に対し貢献出来ている事、B) 今後協力したいこと、C)協力したいが今すぐには難しいことを、それぞれ教えてください

	回答数	A	B	C
①地域や市民、子ども達との交流	7	5	2	0
②情報収集や情報提供	7	4	2	1
③相談やコンサルティング	7	3	4	0
④調査研究	5	3	1	1
⑤人材育成や研修	7	4	2	1
⑥子どもや保護者などへの支援	7	6	1	0
⑦政策提案	6	3	2	1
⑧その他：公開学習会	2	0	2	0

【問6の考察】

前問（問5）結果もそうであったが、子育て支援団体の持つノウハウや情報が、地域に対し貢献可能なものであることがわかった。また、政策提案などまちづくりや制度の改定など暮らしの改善についても、積極的に貢献できるノウハウを有していることがわかった。

問7：問6でC) 協力したいが今すぐには難しい とお答え頂いた項目について、
何が解決すれば協力が可能か、具体的な問題点を教えてください

	Cの数	回答
①地域や市民、子ども達との交流	0	・それぞれの項目について時間を割いて 取り組むことのできる人員が確保でき ないのが現状です
②情報収集や情報提供	1	
③相談やコンサルティング	0	
④調査研究	1	
⑤人材育成や研修	1	
⑥子どもや保護者などへの支援	0	
⑦政策提案	1	
⑧その他：公開学習会	0	

【問7の考察】

具体的な改善策や問題点につながる回答は無かったが、現在おこなっている活動以外に何かをする為の、人的な余裕が団体に無いと、気持ちはあっても実際にはアクションを起こすことが難しいこともわかった。

問8：問6でC) 協力したいが今すぐには難しい とお答え頂いた項目について、貴団体の事務的業務の支援や情報発信や仲介等をしてくれる事務局機能があれば問題は解決すると思いますか

	Cの数	回答
①地域や市民、子ども達との交流	0	・ネットワーク作りが困難 ・事務局機能等を外部に補助して頂くと しても、やはり人員不足の解消にはい たらないのではと考えます
②情報収集や情報提供	1	
③相談やコンサルティング	0	
④調査研究	1	
⑤人材育成や研修	1	
⑥子どもや保護者などへの支援	0	
⑦政策提案	1	
⑧その他：公開学習会	0	

【問8の考察】

前問（問7）では具体的な解決策が出てこなかったが、本問いに対しては、団体間の横のつながりの大切さや、事務局機能のフォローがあっても、それが人員不足の解消につながらなければ、問題の解決につながらないことが明確になった。

しかし、物理的に人員を増やすことはかなり難しいので、スタッフのルーチン作業の負担を少しでも減らすことで、これまでの活動+αが行える余裕を生むといった本事業が目指す方向性が決して間違いでないことも、この結果から確信が得られた。

問 9：子育て支援や中間支援について思うところをご自由にご記入下さい

- ・相談する場所がなくて行きづまっていた。
- ・当施設は事業の拡大、移転等をおこなっている最中で、まずは施設内の安定が先決ですが地域とのつながりに中間支援機能の充実に期待しております。
- ・子どもを取り巻く環境が多様化している中で、支援に関わるスタッフのスキルアップ、またいろいろな情報をしっかり把握して悩んでいる方々への情報提供や専門機関へのつなぎ等がきちんとできる様にしておくことの大切さを日々痛感しております。
- ・子育て支援をおこなっている団体は、法人格を持たず少人数で活動している団体が多いので、そういった所では、事務支援があれば、助かるところが多く交流も促進されると思う。
- ・もっといろいろな団体が集まり交流や情報交換が出来ればいいと思う。

【全体総括】

今回の調査結果より、法人格を有する比較的基盤の安定している子育て支援団体は、現時点でもそれなりに地域の中間支援的な活動を担っていることがわかった。

しかし、その様な中でも人員不足や他団体との交流や情報交換の促進など、更に改善を求めている部分が共通している点も見えてきたので、事務局機能と言うよりは、子育て支援ネットワークのハブ的組織が、ネットワークを形成している団体のスタッフに負担をかけずにかつスタッフの人的負担の軽減につながる形で組織化できれば、各団体の持つ情報や経験を中間支援的に、より積極的に地域に還元していくことが出来ることもわかった。

現在、さんぴいすでは、上記の問題解決のひとつの方向性として、将来、教育や子どもと関わる仕事に就きたいと考える学生を対象に育成し、組織化を検討している。

その具体的な方法としては、インターンの受入れ・ボランティアの募集・アルバイトの斡旋を3本柱として、学生に対し情報提供をおこなうことで、学業と社会経験、生活をおこなう経済力をトータルで得られる＝活動に参加しやすい環境の提供をしていきたいと考えている。

本アンケートの結果をふまえ、本活動に協力頂ける団体がありましたら、ぜひご連絡下さい。

アンケートに関するご質問は、NPO 法人さんぴいすまでお問い合わせください。

〒659-0066

兵庫県芦屋市大槻町7-2-301

TEL 0797-22-8896

NPO 法人さんぴいす

Meil info@sanps.com